

## 編集委員会からのお知らせ

日本公衆衛生雑誌  
編集委員長  
西 信 雄

本年1月に編集委員会が新体制でスタートしてから約3ヶ月が経過しました。この間に新たに進めてきた取り組みを中心にをご紹介します。

まず、昨年1月に導入したオンライン投稿・査読システム (ScholarOne Manuscripts) が軌道に乗ってきたことから、論文の採否を編集委員会または小委員会の会議の場で決定する方法から、編集委員会のメーリングリスト上での1週間の議論をもとに随時決定する方法に変更しました。論文を担当する編集委員、査読委員に迅速な審査をお願いするだけでなく、審査結果を論文責任著者に連絡するメールで以下の下線部分を追加して、著者にも速やかな対応をお願いしています。

「修正論文は、本日より6か月以内にご提出ください。ただし、可能な限り3か月以内にご提出いただけますようお願い申し上げます。3か月を超える場合は、提出見込み時期を、事務局へご一報いただけますようお願い申し上げます。」

このように最終的な採否決定までの時間の短縮化を図っており、その一つの具体策として、論文中の字句や形式的な点については過度に修正を求めないことも本年1月の編集委員会で申し合わせました。これまで教育的査読と称して論文の書き方を指導するような査読を行いがちでしたが、このような役割は共著者の中で指導的立場にある方にお任せすることとして、編集委員会としては支援的査読という立場で審査することにしました。もちろん、この方針の変更は論文の細部を確認しないまま掲載するというものではありません。むしろ、著者には投稿規定や過去の論文を参照して、これまで以上に質の高い論文を投稿いただきたいと思います。本誌の過去の論文については、学会のホームページやJ-STAGEでPDFファイルの閲覧が可能ですのでご利用ください。

また、日本公衆衛生学会が平成26年11月に「公衆衛生学研究のCOIに関する指針」を施行したことを受けて、投稿規定を改正し、投稿時COI自己申告書を作成しました。これらを先月号から掲載していますので、今後論文を投稿される際は必ずCOI自己申告書をご提出ください。

さらに、次の2つの取り組みを今後開始する予定です。一つ目は、本誌の掲載論文の中から毎年の最優秀論文を選んで発表します。選考は本年1月の掲載論文からなど、さかのぼって対象とすることも検討しています。具体的な方法については、編集委員会で決まり次第ご案内します。二つ目は、日本医学雑誌編集者会議を中心に進められている日本語版CrossCheckの構築およびテストに協力します。CrossCheckは、論文の剽窃や二重投稿の問題などを解決するためのものですが、これまで日本語版がなかったため、その構築およびテストに協力するものです。今後投稿される論文については本テストの対象となる可能性がありますのでご了承ください。

最後に、本年4月からは査読委員の約半数が入れ替わり、新たに62名の査読委員が着任します。編集委員会と総勢百名を超える査読委員が一丸となって、本誌が名実ともに日本の公衆衛生の代表的雑誌となるよう努力いたしますので、皆様のご理解、ご協力をよろしくお願い申し上げます。